

# 神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

In search of my America : a brief note on my academic life and writings

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2005-09-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 大塚, 秀之, Otsuka, Hideyuki メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/692">https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/692</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# 業績表の掲載にあたって

大塚 秀之

私は、38年という長い年月、神戸外大で研究生活を送らせていただいたが、研究所の発行する「研究年報」への執筆が他の何にもまして優先する義務であったため、外大の紀要である本誌にはついに一度も執筆しないまま本学を退職することとなった。このたび、本誌に登場する場を与えられたが、この機会が本誌とかかわる最初にして最後の機会となるため、私も神戸外大の1構成員であったことの存在証明として、神戸外大在職中に執筆してきたアメリカ関係のものを、駄文や雑文の類を含め一覧として掲載させていただくことにした。

こうして出来上がった一覧を手にとって眺めてみると、私の覚束ないアメリカ研究の歩みがそれなりに見えてくるので、事のついでにこれまでの研究について簡単な整理を試みた。

私の研究生活にとって、1964年に岩波新書の1冊として刊行された『アメリカ黒人の歴史』の著者本田創造先生との出会いは、決定的な意味を持った。アメリカ経済の現状分析を課題に大学院に進学した私は、本田先生の南部史・黒人史研究に接してアメリカ研究における黒人史・黒人問題研究の重要性を教えられた。また、時あたかも、当のアメリカにあっては、公民権運動が未曾有の盛り上がりを見せ、アメリカ研究に踏み出したばかりの私たち若手研究者は、海の向こうの黒人アメリカ人の闘いから強い衝撃を受けずにはいられなかった。こうして、私のアメリカ研究は、南北戦争の結果奴隷制度が廃止され、もと奴隷にも他のアメリカ市民と同等の市民的・政治的権利が憲法に謳われたにもかかわらず、なぜ今日まで黒人に対する差別と抑圧が黒人間

題という形をとって持続しているのか、の解明に向かっていった。この点に関する私のとりあえずの結論めいたものは、岩波『経済学辞典』（第3版）の「黒人問題」の項目で論じておいたが、その後の私の研究は、ひとつはアメリカ資本主義のもとでの労資関係、もうひとつはアジア系やメキシコ系などを含むもっと広範囲な人種差別の体系の解明へと向かう。人種と階級、あるいは人種関係と階級関係をアメリカ史の文脈のなかでいかに理論的に把握すべきかが、強く意識されたからである。

ここ10年ほど、当のアメリカにあっては主として労働史研究の分野で、白人労働者階級のあいだに根強い人種意識、いわゆる「ホワイトネス」研究が盛んで、白人としての人種意識がいかにして形成されてきたかについて活発な議論が繰り広げられている。しかし、私の場合、こうした意識面よりも、人種差別がアメリカ社会の経済や政治のあり方にどれほど深く組み込まれているかという問題、つまりシステムのほうにより深い関心がある。例えば、現代アメリカにおける人種関係では、もっとも深刻な問題のひとつに居住地の人種分離があげられるが、この問題の根は実に深く、連邦政府の住宅政策、具体的には住宅の融資保障政策や公営住宅政策などのほか、固定資産税など税制や地方自治のあり方そのものとも深くかかわっている。白人住民の人種意識は確かに重要だが、それによってすべてが説明できるというわけには到底いかない。

こうして、黒人問題の経済的基礎の解明ということで南部のプランテーション制度の研究から出発した私のアメリカ研究は、移民史や労働史、人種関係史などえととめどもなく広がり、取り上げたどのテーマについても何一つまとまった成果を挙げないまま、アメリカ史という大きな海原をさまよい続けている。しかし、今年の8月から9月にかけてルイジアナ州のニューオーリンズやミシシッピ州を襲ったあのハリケーン〈カトリーナ〉がまざまざと示したように、人種差別や階級差別は今日なお広く深くアメリカ社会を蔽っているのは紛れもない事実であり、人種差別に着目したアメリカ研究の必要

性が今なお高いことだけは確かであろう。

これまで述べてきたような研究生活を送るうえで、私は貫名美隆先生に大変お世話になった。貫名先生は、その専門とするアメリカ文学・文化研究の分野において黒人問題や黒人文学の重要性を早くから指摘され、あのブラウン判決が下された1954年、ここ神戸外大にいち早く〈黒人研究会〉を創設された。この〈黒人研究会〉が、その後今日に至るまで、わが国における黒人問題・黒人文学研究のセンターとして大きな役割を果たしてきたことは周知の事実である。私の恩師の本田先生もこの会の会員で、このことが機縁となって私の本学での採用が実現した。〈黒人研究会〉の存在をとおして、神戸外大の名は、広くアメリカ研究者の間に知られるようになったといっても過言ではなく、また、貫名先生の蔵書を中心に神戸外大の図書館に設けられた〈黒人文庫〉は、黒人問題・黒人文学にかんするわが国有数のコレクションとしてつとに有名である。

本田先生や貫名先生、また、鈴木圭介先生や陸井三郎先生など身近で指導していただいた先生方や先学、そのほか数多くの友人や同僚の皆さんに恵まれた私は、菲才ながら、これまでなんとか研究生活を送ることができて本当に幸せだったと、しみじみ思っている。冥利に尽きるという言葉があるが、私のこれまでの人生は、まさに研究者冥利に尽きる人生であった。まだまだ先は長いので、アメリカという国の芯をしっかりとつかむことができるように、これからも大いに努力していきたいと考えている。皆さん、大変お世話になりました。とりあえずさようなら。

2005年9月19日、敬老の日に

## 1. 著書

- 『アメリカ資本主義の成立と展開』 共著 岩波書店 1974
- 『現代の経済学（下）』 共著 青木書店 1978
- 『アメリカ独占資本主義』 共著 弘文堂 1980
- 『アメリカ合衆国史と人種差別』 単著 大月書店 1982
- 『アメリカ経済史Ⅱ』 共著 東京大学出版会 1988
- 『アメリカ社会史の世界』 共著 三省堂 1989
- 『現代アメリカ合衆国論』 単著 兵庫部落問題研究所 1992
- 『現代アメリカ社会論』 単著 大月書店 2001

## 2. 論文

- 「初期デュボイスの「黒人問題」認識」（『研究年報』V） 外大研究所 1968
- 「キング牧師暗殺とジャーナリズムの反応」（『黒人研究』第35号） 黒人研究の会 1968
- 「南北戦争中の「再建」」（『研究年報』VI） 外大研究所 1969
- 「解放民と土地」（『研究年報』VII） 外大研究所 1970
- 「J. A. ホブスンと黒人問題」（『黒人研究』第41号） 黒人研究の会 1971
- 「「第二次アメリカ革命」批判論の一考察」（『研究年報』VIII） 外大研究所 1971
- 「1910年代のアメリカ黒人の就業構造」（『研究年報』IX） 外大研究所 1972
- 「南北戦争後南部農業の展開」（『研究年報』X） 外大研究所 1973
- 「作物質権制と南部」（『研究年報』XI） 外大研究所 1974
- 「アメリカ黒人の経済的地位」（『研究年報』XII） 外大研究所 1975
- 「現代アメリカ社会と黒人問題」（『部落問題研究』第45号） 部落問題研究所 1975
- 「アメリカ民主主義と黒人問題」（『前衛』76年9月号） 日本共産党中央委員会 1976

- 「現代アメリカにおける教育の機会不均等」(『研究年報』XIII) 外大研究所  
1976
- 「アメリカ電話電信会社A T & Tにおける雇用差別」(『研究年報』XIV) 外  
大研究所 1977
- 「アラン・バッキ事件」(『部落問題』) 兵庫部落問題研究所 1978
- 「アメリカ合衆国における「逆差別」論争に関する一考察」(『研究年報』  
XV) 外大研究所 1978
- 「資本主義と外国人労働者」(『研究年報』XVI) 外大研究所 1979
- 「アメリカ人種問題への一視角」(『文化評論』80年11月号) 新日本出版社  
1980
- 「アメリカ合衆国における最近の移民政策論争」(『研究年報』XVII) 外大研  
究所 1981
- 「アメリカ民主主義と人種差別」(『アメリカ史研究』第4号) アメリカ史  
研究会 1981
- 「世紀転換期のアメリカ合衆国における外国人契約労働者問題」(『研究年報』  
XIX) 外大研究所 1982
- 「ケアリー・マックウィリアムスと合衆国の人種差別」(一橋大学一橋学会  
編『一橋論叢』第88巻第1号) 日本評論社 1982
- 「1920年代シカゴにおけるメキシコ人労働者」(『研究年報』XX) 外大研究  
所 1983
- 「アメリカ合衆国における資本＝賃労働関係の歴史的展開をめぐる予備的考  
察」(『研究年報』XXI) 外大研究所 1984
- 「アメリカ独占資本主義確立期の労働市場」(『研究年報』XXII) 外大研究  
所 1985
- 「合衆国労資関係委員会最終報告にかんする一考察」(『研究年報』XXIII)  
外大研究所 1986
- 「アメリカ労働史の中の「人種」」(『黒人研究』第56号) 黒人研究会

1986

「『繁栄』の時代と『不毛』の時代」(『研究年報』XXV) 外大研究所 1987

「welfare capitalism 論ノート」(『研究年報』XXV) 外大研究所 1988

「現代の移民問題」(『アメリカ史研究』第11号) アメリカ史研究会 1988

「自動車の社会的影響にかんする日米の研究動向—研究史的考察—」(『研究年報』XXVI) 外大研究所 1989

「ニューディール期労働史の基調をめぐって」(『龍谷大学経済経営論集』第28巻第4号) 龍谷大学経済・経営学会 1989

「F. L. アレン『オンリー・イエスタデイ——1920年代・アメリカ』」(『経済』第300号) 新日本出版社 1989

「現代アメリカにおける不平等—黒人の経済状態を中心に—」(『研究年報』XXVII) 外大研究所 1990

「最近のアメリカ合衆国における黒人の状態」(『歴史地理教育』91年3・4月号) 歴史教育者協議会 1991

「米国経済のリストラクチュアリングと黒人の経済生活」(『研究年報』XXVIII) 外大研究所 1991

「今日の黒人問題とその基本的特徴」(『部落問題研究』第13号) 兵庫部落問題研究所 1991

「アラン・パーカー『愛と哀しみの旅路』」(『文化評論』第366号) 新日本出版社 1991

「1980年代アメリカ合衆国における失職とその特質」(『研究年報』XXIX) 外大研究所 1992

「アメリカ資本主義の病理」(『経済』第338号) 新日本出版社 1992

「アメリカ資本主義の荒野」(『世界政治』第867号) 日本共産党中央委員会 1992

「デトロイトのポーランド系労働者」(『研究年報』XXX) 外大研究所 1993

- 「レッドライニングと居住地の人種隔離」(『研究年報』XXXI) 外大研究所  
1994
- 「苦悩するアメリカ」, 「荒廃にあえぐ大都市」(『歴史評論』第531号)  
校倉書房 1994
- 「いわゆる『ニューデール(型)』労資関係制度をめぐる一考察」(『研究  
年報』XXXII) 外大研究所 1995
- 「最近の米国にみる『ミドルクラス』衰退論とその背景」(『研究年報』XXXIII)  
外大研究所 1996
- 「ピスカタウェイ事件考」(『研究年報』XXXIV) 外大研究所 1998
- 「『不安階級』と『雇用不安パラダイム』」(『労働総研クォーターリー』30号)  
労働問題総合研究所 1998
- 「合衆国の人種関係における人種と階級」(『外国学研究』XLI号) 外大研  
究所 1998
- 「アメリカ合衆国における人種差別を考える——司馬遼太郎のアメリカ——」  
(『部落』第668号) 部落問題研究所 2000
- 「都市と人種——スグルー『都市危機の起源』を読む——」(『アメリカ史評  
論』第18号) 関西アメリカ史研究会 2000
- 「2000年米大統領選挙」(『経済』第66号) 新日本出版社 2001
- 「大恐慌・ニューデール期の労働運動と労資関係」(『研究年報』第XXXVIII  
号) 外大研究所 2001
- 「交錯するアメリカの光と影」(『歴史地理教育』第641号) 歴史教育者協議  
会 2002
- 「公営住宅とアメリカン・アパルトヘイト——ヨンカースの事例を中心に——  
」(『研究年報』第XXXIX号) 外大研究所 2003
- 「帝国アメリカの内側——広がる格差, つのる不平等——」(『前衛』第775  
号) 日本共産党中央委員会 2004
- 「ブラウン判決から50年——アメリカ社会の人種的分裂の現在——」(『歴史

地理教育』第672号) 歴史教育者協議会 2004

### 3. 書評

「本田創造著『アメリカ社会と黒人』(『歴史評論』第266号) 校倉書房  
1972

「藤岡惇著『アメリカ南部の変貌』(『土地制度史学』第114号) 土地制度  
史学会 1987

「平尾武久他編著『アメリカ大企業と労働者』(『経済』第45号) 新日本出  
版社 1999

「チャルマーズ・ジョンソン著『アメリカ帝国の悲劇』(『赤旗』12月5日  
号) 日本共産党中央委員会 2004

### 4. 時評

「アラン・バッキ事件と「逆差別」論争」(『アメリカ史研究』第1号) ア  
メリカ史研究会 1978

「アメリカ雑感」(『部落問題』) 兵庫部落問題研究所 1980

「金銭崇拜と人種差別の国」(『部落』第551号) 部落問題研究所 1992

「ロス暴動の背景」(『神戸新聞』5月22日) 神戸新聞社 1992

「“長く暑い夏” はよみがえるのか 上・下」(『赤旗』5月12・13日) 日本  
共産党中央委員会 1992

「『マルコムX』ブームと現代アメリカ 上・下」(『赤旗』3月25・26日)  
日本共産党中央委員会 1993

「キング牧師, マルコムX, スパイクリー」(『新英語教育』第293号) 三友  
社出版 1994

「どうみる米大統領選」(『学生新聞』3月23日) 学生新聞社 1996

「鈴木圭介先生とアメリカ資本主義発達の基本線」(『自由の風』) 鈴木圭介  
追悼文集刊行委員会 1999

- 「“not by the laws of the nature, but by our institutions”」（『神戸外大だより』第134号） 神戸市外国語大学 2000
- 「ネーダー出馬が引き起こした衝撃」（『赤旗』12月23日） 日本共産党中央委員会 2000
- 「〈書架散策〉 本田創造著『アメリカ黒人の歴史』（『赤旗』4月16日） 日本共産党中央委員会 2001
- 「インタビュー：アメリカ——テロ，報復戦争，不況下の生活不安——」（『赤旗』11月24日） 日本共産党中央委員会 2001
- 「本田先生のお仕事」（『アメリカ史研究』） アメリカ史研究会 2001
- 「戦争と米国の歴史あるいは関わりをめぐって」（『神戸外大だより』第138号） 神戸市外国語大学 2001
- 「私のアメリカ合衆国研究」（『人権問題』第301号） 兵庫人権問題研究所 2002
- 「間違いだらけのモデル選び？」（『神戸外大だより』第141号） 2002
- 「米国の人権問題」（『人権と部落問題』第691号） 部落問題研究所 2002
- 「変るアメリカ，変らぬアメリカ」（『人権問題』10月号） 兵庫人権問題研究所 2003
- 「米大統領選—イラク戦争中止，国民生活安定の政権実現は可能か—」（『赤旗』2月18日） 日本共産党中央委員会 2004

## 5. 討論・シンポジウム

- 「民族と国家のあいだ」（『現代と思想』第33号） 共著 青木書店 1978
- 「日本におけるアメリカ研究の発達と現状—アメリカ黒人史研究—」（アメリカ研究資料センター年報） 共著 東京大学アメリカ研究資料センター 1984年
- 「覇権大国アメリカ」（『経済』第4号所収） 共著 新日本出版社 1996

## 6. 辞典等の項目執筆

『経済学辞典（第2版，第3版）』 岩波書店 1979,1992

『経済学辞典』 大月書店 1979

『体系経済学辞典』 東洋経済新報社 1984

『100問100答世界の歴史3，アメリカ・太平洋』 河出書房新社 1996

『マルクス・カテゴリー事典』 青木書店 1998

『スーパー・ニッポニカ』 [ライト版] Windows版 小学館 1999年